

彩の歳時記

平成二十八年 十月

十月の風雨明けゆく雨蛙 水原秋桜子 【1892～1981】

十月、「月」の数が二桁になると、一年の速さに驚きを覚えます。温暖化の影響で**紅葉前線**も年々、遅くなりつつありますが、彼岸を過ぎる頃から風が心地よく感じられます。爽やかな秋風に身を任せ、**芸術の秋・食欲の秋**を堪能したいもの。収穫祭・文化祭・体育祭など行事も目白押し、体調を管理し整え、それぞれの場所で、自分を磨き輝きたいものです。

十月の暦

神無月 出雲大社に全国の神様が集まるため、出雲以外には神様が居なくなる月。出雲では神在月。他に開冬・初霜月・時雨月

一日 東京都民の日(1898年(明治31年)のこの日、**東京市が誕生**。市役所が開設されたことに由来。

向島百花園・殿ヶ谷戸庭園・上野動物園・夢の島熱帯植物館・江戸東京たても園・浜離宮・六義園・清澄庭園・神代植物園・葛西臨海水族園・東京港野鳥公園・江戸東京博物館・庭園美術館・都美術館・現代美術館 旧芝離宮庭園・旧岩崎邸庭園・旧古河庭園・多摩動物公園・井の頭自然文化園・小石川楽園などが無料公開。

一日 **衣替** 気候に合わせて衣服を冬服に替える日。平安時代からの**宮中行事**。学校・官公庁・銀行などで実施。**和服では今も重視**。正式には**六月から九月は単(ひとえ)**、**十月から五月は袴(あわせ)**

三日

蛇笏忌・山廬忌

正岡子規、高浜虚子とともに近代俳句史の代表作家・飯田蛇笏【1886～1962】

の忌日。生家のある山村「山梨県笛吹市」で暮らしつつ、格調高い句を作り、大正時代に俳誌「ホトトギス」の隆盛期を築いた。四男の**飯田龍太【1920～2006】**も高名な俳人。山廬とは「山の粗末な建物」そして「そこに住む者」の総称で、自らの居室につけた造語。現在も当主**飯田秀實氏**が住宅として使用。未公開。

十月の日影をあびて酒造り 晩秋や山越えて来し人の顔



蛇笏と龍太——山廬追想

八日 **寒露**【二十四節気】晩秋から初冬にかけての霜になりそうな冷たい露がみられる。

十日 **体育の日** 第二月曜日 1966～1999年は十日。2000年より祝日法改正に伴い、第二月曜日に。

東京オリンピック開会の日 1964(昭和39)年、**アジアで最初のオリンピック東京大会の開会日**

十三夜 **十三夜の月栗名月** 中秋の名月が中国から伝わった行事であるのに対して、こちらは日本独特の行事。

十七日 **神嘗祭**(かんなめさい) **伊勢神宮の大祭**。天皇がその年の新穀を天照大神に奉納する。

二十三日 **霜降**【二十四節気】秋が一段と深まり朝霜が降りる頃。日の短さを実感。

二十七日 **読書週間**[10/27～11/9]の初日で言語力を高める日。**神田古本祭**など。

三十一日 **ハロウィン** キリスト教の「万聖節」の前夜祭。もとは秋の収穫祭で悪霊などを追い出す

宗教的行事。1970年代、キティランド原宿店で関連商品の販売開始、1997年にディズニールランドでイベントが開催され、人気行事に。



十月の歌 **Che sarà (ケ・サラ)** ホセ・フェシリアーノ他

イタリアで発表された1971年、日本は学生運動の火が燃っていた頃で「西村義明」が自身の政治思想を基に超訳した歌詞を学生達が集会や歌声喫茶などで合唱していた。現在は若谷時子訳が一般的。意味は「**どうにかなるさ**」で英語は「**Let it be**」終戦70周年の2015年「**忘れないう緑り返さない**」のコンセプトで「今こそもう一度、平和を真剣に考える年になって欲しい」という平和の思いが込めて「**元ちとせ**」がカバーしている。

1 平和で美しい国 信じあえる人ばかり
だけど明日はどうなることやら
誰も分かりはしないさ
ケサラ ケサラ ケサラ
僕たちの人生は階段をてさぐりで
歩くようなものさ
ケサラ ケサラ ケサラ
固く心結ばれて誓い交わした友達
だけど背き合うこともきっとあるだろう
誰も分かりはしないさ
※ケサラ ケサラ ケサラ
僕たちの人生は涙とギター道づれにして
夢みていればいいさ 3 番略

